

## 年次研修者振り返り

1年次 数学科 武井 文音

今年度は以下の2点に重点を置いて授業を行った。

一つ目に、数学の面白さや有用性を伝える活動を取り入れることである。本校生徒を指導する中で、数学は難しい、将来役に立たないという考えから数学に苦手意識を持っている生徒が多いと感じている。数学の面白さや解けたという体験、日常生活のどのような場面で活用できるかを授業に取り入れていくことで、生徒の前向きな取り組みを促すことをねらいとした。

二つ目に、アウトプットの機会を多く取り入れることである。自分の考えを他者に説明し、他者の考えを聞くことで自分の考えを深めていく。また、式やグラフ、図など数学的に表現されたものを読み取り解釈したり、それを数学的に表現したりする機会を設けることで、数学における読解力の育成をねらいとした。

1学期には2年生の授業において、場合の数の組合せの導入部分でペアワークを行った。前單元である順列との違いを考えさせ、自分の考えを相手に説明するという活動内容である。他者の意見を聞いて自分の考えを深めることが目的であったが、求めていた意見がほとんどの生徒から出てこなかったことと、自分の意見を言うことで満足してしまう生徒が多く、目的を達成することができなかった。ペアワークを行うことを目的とするのではなく、なぜその活動を行うのかという軸を私自身がきちんと持って生徒の活動を考えなければならぬと感じた。

2学期には1年生の授業において、2次不等式の2次関数のグラフが  $x$  軸と1点で接するパターンについてグループワークを行った。その前に扱った、2次関数のグラフが  $x$  軸と2点で交わるパターンの考え方をを用いて解法をグループで話し合い、他のグループに発表するという活動内容である。どのグループも解答を出すことはできたが、わかりやすい発表を行うということに課題が残った。今後も自分の考えを発表する機会を設けることで、わかりやすい説明をすることができるような指導を継続していく。

3学期には1年生の授業において、三角比を用いて実際に木の高さを測るという活動を行った。生徒が積極的に参加する姿が見られ、学んでいることが実際に活用できることがわかった、問題を解くときにイメージしやすくなったとの意見が得られた。三角比は暗記に終始してしまいがちな單元であるが、その後の授業では暗記ではなく理解しようとしている生徒の姿が多くみられている。この活動は今後も取り入れていきたいと考えている。

今年度は生徒の数学における読解力を育む指導には課題が残ったが、数学の面白さを伝えることはできたと感じている。今後も先生方との研修や協議を通して、生徒の読解力を育むための指導方法について考察していきたい。さらに数学に関する知識や指導力を高め、より良い授業を目指していく。